クボガイ復活？

伊豆分場だより第356号に磯物激減という記事を掲載しており、その中で伊豆半島では2018年にクボガイ科巻貝の激減が確認されていると記載しています。その後はクボガイ科の「バテイラ」（通称：シッタカ）については徐々に回復の兆しがみられ、わずかであるが漁獲され始めました。また、同じくクボガイ科の「クボガイ」と思われる個体も、当場が把握している範囲で、東伊豆町稲取地先、西伊豆町地先、にてみられる状況のようで、当場が行った潜水調査中に下田市白浜地先でもみられました。しかし、以下2点の気になる情報が寄せられましたので、まとめます。

１．クボガイ科巻貝の裏側に穴が空くようになった？

稲取の漁業者さんから「最近のクボガイの殻の裏側の中心部（さい孔）は穴が空いているが、以前のものは空いていなかった」との情報がありました。そこで、11月15日に漁獲物サンプル38個体いただき、確認したところ、確かに全て穴が空いており（写真1、2）、貝類の図鑑*を参考にすると同種は「ヘソアキクボガイ」という種類とみられました。一方でさい孔に穴が空いていない種類は「クボガイ」とみられます（ただし、ヘソアキクボガイの中にも穴が空かない個体もいるようです）。なお、さい孔が空いていない個体も希にいるようで、その貝殻サンプルもいただきました（写真3）

さらに、西伊豆町地先でもクボガイ科巻貝が見られるようになってきていますが、これらも11月21日に21個体確認したところ、すべてさい孔に穴が空いており「ヘソアキクボガイ」であるとみられました。このことから、稲取の漁業者さんの話も加味すると、以前は「クボガイ」が優先しており、磯物激減があった後「ヘソアキクボガイ」が優先するようになった可能性が考えられます。仮にそうであれば、同じクボガイ科でも激減した後の回復に遅速があるのかもしれません。

なお、図鑑*によると、クボガイの分布は房総半島以南、ヘソアキクボガイの分布は北海道南部から九州とのことで、南方系に切り替わったという訳ではないようです。

２．クボガイ科巻貝が腰高になった？

同じく稲取の漁業者さんから「穴が空いているようになったと同じくして、殻幅に対して殻高が高く（腰高）なった気がする」との情報もありました。そこで、稲取

及び西伊豆町のヘソアキクボガイの殻幅と殻高を測定し、図鑑*に記されているクボガイとヘソアキクボガイの値と比較してみました(図)。すると、稲取と西伊豆町のヘソアキクボガイは図鑑*のクボガイに比べて殻幅に対して殻高が低く(腰低)、先述の漁業者さんの情報と反対の結果となりました。しかし、クボガイのサンプルが十分になく、図鑑*の１個体のみの情報であることから、今回は詳細がわかりませんでした。なお、１に記したさい孔が空いていない個体の測定もしましたが、他のヘソアキクボガイとの違いはみられませんでした。

ここまで書き連ねて元も子もないようですが、「クボガイ」であろうと「ヘソアキクボガイ」であろうと、磯物復活の兆しがみえることは朗報です。ただし、今後、さい孔が空いていない「クボガイ」も増えてくるのか、動向を注視していきます。

＊鈴木泰二・本間三郎（1985）学研の観察図鑑 13　海の貝,(株)学習研究社

写真１　稲取地先の
ヘソアキクボガイ

写真２　ヘソアキ
クボガイ拡大

写真３　さい孔が空いて
いない個体

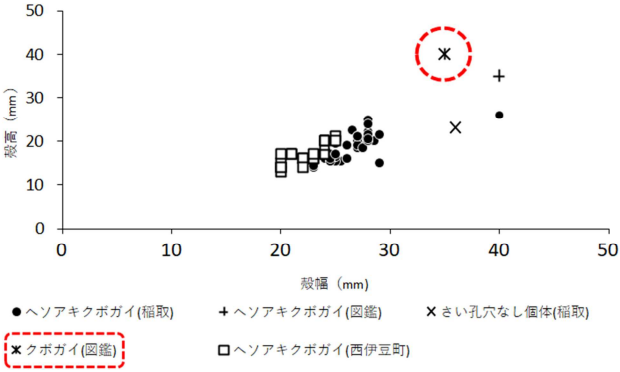

図　殻高と殻幅の比較

（髙田伸二）